

ISO/TC 127 (土工機械) /WG 8 (ISO 10987 持続可能性) 会議

標準部会 ISO/TC 127 土工機械委員会国際専門家 (Expert)

出浦 淑枝 (コマツ)

1 会議名称 : ISO/TC 127/WG 8 (ISO 10987持続可能性)

2. 開催日 : 平成 24 年 3 月 8 日, 9 日

3 開催地 : フランス国パリ西郊クールブヴォア市 La Maison de la Mécanique (機械会館) 会議室

4 出席者 : 米国4 : Dr ROLEY、Mr CROWELL (Caterpillar) 、Mr MERFELD (Terex) 、Mr NEVA (斗三/Bobcat) 、フランス1 : Mr JANOSCH (Caterpillar France) 、英国1 : Ms HUTSON (JCB) 、スウェーデン1 : Mr JONSON (Volvo) 、日本1 : 出浦 (コマツ) 、小倉 (協会、8日のみ)

計 9 名出席

● WGコンビナー (主査) 兼ISO 10987PL (プロジェクトリーダー) : 上記Dr ROLEY

5 主要議題、議決事項、特に問題となった点及び今後の対応についての所見 :

5.1 主要論議 :

この規格ISO 10987はFDISを事務局に提出済でもなく投票に入る。

今回は (いったんISO 10987発行後に) 今後規格化が必要な内容について議論し、次の5点が挙げられた (優先順位順)。

(1) 有害化学物質

・米国では製品含有化学物質情報の収集がPLリスクにつながる事が認識され始め、AEM (建機工) が自動車業界、航空機業界などと情報収集方法の規格化活動を始めた。自動車業界では既にIMDS (International Material Data System) が業界標準となっているが、米国では自動車業界でさえもこのシステムに満足しておらず、新しい収集システムの可能性を探っている状態。

・コマツ、ボルボはIMDSを既に使用している。

・日本では情報収集プロセスをJIS規格化中である。

・規格化するとしたら、①各国の規制化学物質リスト、②物質情報収集のプロセスの2種類が考えられる。

(2) 省エネ運転

・EU当局のCO2削減規制の動きに対して、CECE (欧州建機工) は四つの柱 (Process efficiency, Operation efficiency, Machine efficiency, Alternative energy sources) と70のツールを使ったCO2削減実証実験 (ボランティアアプローチ) を提案予定。将来はEN/ISOとして規格化したい。

・US EPAは予算不足のため、建機のCO2削減規制検討は停滞中。トラック業界はSmartWayというボランティアプログラムでCO2削減に成功したので、AEMも同様

の方向を提案したい。CECEの活動を参考にしたい。

- ・日本は国土交通省の指定制度により、Machine efficiencyのみ規制が決定しているが、欧米同様に現場ユーザへの働きかけも必要ではないか。

(3) 中古車・リマニュファクチャリング

- ・中国、ベトナムで中古車規格を作成中なので、ISOを作成しておくべき。塗装しなおしただけでリビルドと呼んでいるような事態は好ましくない。

(4) 教育

- ・持続可能性のためには正しい運転・整備が必要。運転員、整備員を対象に持続可能性の観点をISO 7130に追加すべき。(ISO 7130はDIS投票中)

- ・規格化のために、まず各国の実情把握が必要。誰が(OEM?官?ユーザ団体?)、何を(安全、エコ)、どのように(座学、シミュレーション、実機)実施しているか? JTLM(国際建機工技術連絡会議)でとりあげてはどうか。

(5) 騒音

既に規制・規格もあるので、それらの改訂動向をウォッチする(特にEU)。

5.2 今後の対応

(1) 有害化学物質

- ・AEMの規格化活動と連携する
- ・日本で作成中のJIS案を次回紹介する(出浦)

(2) 省エネ運転

- ・CECEの規格化提案を待つ

(3) 中古車

- ・中国・ベトナム規格案文をレビューするため、英文の案文を配布する(Role y)

- ・リサイクル、リユース、リビルドなどに関するISO、各国規制を次回確認する(全員)

- ・各社中古車ガイドラインがあればPLに送る(全員)

(4) トレーニング

- ・各国の教育状況について次回までに調べる(全員)
- ・大形機械のISO/WGでも議論する(Roley)

(5) 騒音

- ・EU騒音規制の改訂動向を次回報告する(JANOSCH)

5.3 共通的問題点・所感:

よりよい規制・規格のあり方について考えさせられた。CO2削減はエンジン、機械、現場管理のすべての努力が必要なので、欧米では「ボランタリプログラム」と称して、関係者全員で行う活動を機械メーカーから当局に提案しようとし

ている。日本では低炭素型機械指定制度として、機械への事実上の規制を制定済なので、欧米参加者から視点の欠如を指摘されて苦しかった。ISO化を機に、ユーザ等の関係者全員が参加できるCO2削減のしくみを検討することが課題とを感じる。

また化学物質情報収集を業界のとりくみにしたいという提案は、日本が3年前に投げかけたときは見向きもされなかった。日本が先行して活動提案しても、米国（特にキャタピラー社）がその必要性を認識しないと業界の動きにならない。ようやく意識が追いついてくれたところで、日本の経験を紹介して議論をリードしていきたいところ。一方、米国は中国の動きには非常に敏感である。マーケットの大きさにはかなわないが、やはり日本が先行している環境分野の規格化でTC 127活動に寄与していくべきと思う。

6 次回開催予定：（開催年月日、開催国及び都市名）

12月3日の週または1月14日の週 ローマまたはマイアミ

参考) 1月10日の週にISO 12509（灯火類）、ISO 11152（エネルギー使用試験方法）をマイアミにて開催予定